

2013年3月期 第1四半期(2012年4月~6月)決算説明電話会議 主要Q&A

Q：売上高総利益率悪化の内容を教えてください。

A：×10億円の内容は、

- ・ 新規領域の不採算案件が、引当を含め×5億円
- ・ 第5データセンターの減価償却等×2億円
- ・ 案件構成差×3億円

となっております。

なお、

- ・ 不採算案件は上期カットオーバーの案件ですが、2Q分も含め現状見通せる範囲でのコストを引当てたものです。
- ・ 案件構成は、前1Qが一時的に高採算案件が多かったものの反動等です。

Q：受注の動向について教えてください。

A：1Qの受注は、公共分野の大型案件の受注計上もあり、対前年同期+147億円の増となりました。セグメント別には参考資料(Appendix)に記載しておりますが、

- ・ 業務ソリューション：+110億
- ・ 基盤ソリューション：+2億
- ・ ビジネスサービス：+35億

となっております。

なお、この大型案件を除いても、対前年同期約+50億円の増となっております。

Q：産業・流通・サービスの増収の説明で、電機向の減を他積上げでカバーとあるが、その中身を教えてください。

A：電機向以外全般的に増となっており、中でもネット系などが増加しております。既存のお客さまも新規のお客さまも両方ございます。

Q：基盤ソリューションのプロダクト販売減について教えてください。

A：基盤ソリューションは、クラウド関連は増となったものの、プロダクト販売の減により減収となりました。プロダクトのコモディティ化、競争激化により厳しい状況にあります。2Q以降、再度販売に注力し基盤ソリューションの上期見通しを達成していきたいと考えております。

Q：受注した公共分野の大型案件は、今期売上にどのように効くのか。

A：案件は複数で全体が90億円規模、複数年契約なので、初年度である今期は全体売上の4分の1~5分の1を計上予定です。

以上